



生理用品サポート事業の実施状況について

生理用品サポート事業「きんもくせいプロジェクト」の実施状況等について報告します。

1 事業の背景

経済的な理由で生理用品を買えないといったいわゆる「生理の貧困」については、当事者が声をあげにくいテーマでしたが、コロナ禍をきっかけに顕在化し、国内外で関心が高まっています。民間団体の「#みんなの生理」が行った日本の若者の生理に関するアンケートによると、金銭的理由で購入に苦労したことがある若者の割合が5人に1人という調査結果が出ています。

2 事業の目的

SDGsの誰ひとり取り残さないすべてのひとにやさしいまちづくりの一環として、経済的負担の軽減を図るとともに、支援を必要とする女性に対して適切な相談支援につなげるための取り組みとして当該事業を実施しているものです。

3 事業の概要

本年4月から、市内の学校及び若者や女性が立ち寄りやすい施設等において、様々な困りごとの相談に応じるとともに生理用品を配付しています。さらに、5月からは、生活再建支援窓口への「きんもくせい相談窓口」の開設やこども食堂との連携を図るなど、庁内横断的に事業を拡充し、本格実施しています。

(1) 対象者と相談窓口など

	対象者	相談窓口	相談の受付方法等
こども	市内の小・中学校、明石商業高校の児童・生徒	各学校(43校)	声掛けしやすい先生に相談
	中学生、高校生、大学生、専門学校学生など	AKASHI ユーススペース(パピオスあかし5階)	トイレ内にカードを設置し、受付カウンターでカードを提示してもらう。希望する場合、継続相談につなぐ。
	要支援児童	明石こどもセンター	家庭訪問時等に個別で対応
	こども食堂利用者	こども食堂	こども財団と連携し、こども食堂でも生理用品を配付し、こどもの見守り・支援につなぐ。
一般	明石市民と市内学校の通学者	あかし男女共同参画センター(アスピア明石北館7階)	トイレ内にカードを配置し、受付カウンターでカードを提示してもらう。希望する場合、継続相談につなぐ。
	明石市民	きんもくせい相談窓口(北庁舎1階)	生活再建支援相談時に、希望者に生理用品を配付する。 アウトリーチ相談も実施

※その他、母子父子自立支援相談、ひきこもり相談等の相談支援事業とも連携します。

- (2) 配付物内容 生理用ナプキン1袋、相談窓口案内チラシ等
- (3) 生理用品 当初購入分3000袋+防災用備蓄品270袋から配付
- (4) 実施期間 2021年4月1日～2022年3月末

4 相談窓口別配付状況 (4/1～5/31)

	相談窓口	配付実績内訳等					配付数
		小学校・養護学校	中学校	高校			
4月1日～スタート	学校	32	18	6			56
	明石こどもセンター	来所時に配付 43		訪問時に配付 17		60	
	AKASHI ユーススペース	小学生 1	中学生 13	高校生 7	大学生等 25	一般 4	50
	あかし男女共同参画センター	19歳以下 14	20歳代 21	30歳代 37	40歳代 39	50歳以上 14	125
5月1日～拡充	きんもくせい相談窓口 (生活再建支援) DVセンター 母子父子自立支援 ひきこもり相談等	19歳以下 3	20歳代 3	30歳代 0	40歳代 3	50歳以上 0	9
	こども食堂	こども財団から、各こども食堂運営者に連絡 5月中に配布した数 9					9
配付合計							309

(主な相談者の声)

- ・生活面でとても困っていたので助かった。(中学生の母親)
- ・一人暮らしのため、何かと大変なので助かる。(大学生)
- ・アルバイトがなくなったが何とか頑張っている。無償提供はありがたい。(大学生)
- ・今回一回だけですか。継続して欲しい。(10代)
- ・生理用品を受け取りに男女共同参画センターに行ったとき、就労支援相談を受けることができ、今後の就職活動の参考になった。(30代)
- ・きんもくせいプロジェクトをきっかけに訪れた男女共同参画センターで、相談員さんが親身になって話を聞いてくれたので、生活困窮の相談をしたら、生活再建支援窓口のきんもくせい相談を案内してもらえた。

5 今後の取り組みについて

当該事業については、今後の実施状況、市民ニーズやコロナの影響等を十分に考慮のうえ、適宜事業内容の見直し等も行いながら、次年度以降も継続して実施していきます。